

国内経済情勢

概観

生産、出荷などの経済活動は、このところかなりのテンポで回復している。これは、主として官公需や輸出がやや急速な伸びを示しているほか、個人消費も緩慢ながら持ち直し傾向を続けていることによるものである。しかし、企業収益の立ち直りが全体としてかなり遅れていることもあって、民間投資活動は目下のところいくぶん上向きぎみの程度にとどまっているようである。商品需給バランスの改善傾向を映じ、商品市況の地合いは、綿、スフなどを除き、総じて回復基調を維持しているが、生産調整の緩和などから、一部には上げ一巡を示すものも生じている。金融機関の貸出態度は引き続き積極的であるが、企業の借入需要はなお落ち着きぎみに推移し、貸出金利も緩慢ながら低下を続けている。

国際収支面では、輸出の季節的減少から貿易収支の黒字幅は縮小したが、他方、長期資本収支の赤字も小幅化したため、総合収支は若干の受超となった。

生産出荷は引き続き増加、製品在庫調整は進捗

4月の鉦工業生産(季節調整済み、速報)は、前月比+1.1%の増加となった。財別にみると、資本財(一般機械、鉄道車両)、耐久消費財(軽自動車など)は減産となったが、生産財(鉄鋼、石油)と非耐久消費財はかなりの増加を示している。

4月の鉦工業出荷(季節調整済み、速報)は、前月比+2.9%と著伸を示した。各財とも軒並み増加を示しており、とくに耐久消費財が、これまで物品税引下げに備え出荷が手控えられていた家庭用電機を中心に、著増し、また生産財が、鉄鋼、

石油などの出荷増から、かなり増加している点が目立った。

上記の生産、出荷動向を映じ、4月の鉦工業製品在庫(季節調整済み、速報)は-2.5%とかなりの減少を示した。とくに耐久消費財の減少は著しく、また鉄鋼、化学品、繊維などを中心に生産財もかなり減少している。かかる在庫の減少から、鉦工業製品在庫率は前月比-5.3%と大幅に低下し、製品在庫の調整は、引き続き進捗を示した。

他方、設備投資は、一般資本財の出荷動向などから推して、ほぼ横ばい傾向にあるものとみられる。3月にかなり増加した機械受注額(海運を除く民需、季節調整済み)は、4月には電力など非製造業からの受注の反動減が大きく響き、速報で-16%の減少となった。ただ、製造業からの受注は、4月には微減を示したものの、最近の動きをならしてみると、ゆるやかな上向き傾向を続けている。

商品市況は回復基調ながら、一部に上げ一巡の動き

4月から5月にかけての商品市況をみると、官公需、輸出の漸増、個人消費の持ち直し傾向を映じ、セメント、紙、合成繊維などは依然回復歩調を続け、化学品なども次第に底堅い動きを示している。しかし、綿、スフなどは大勢として引き続き低迷し、また、3月から弱含みに転じた石油に続き、4月央以降鋼板類も上げ一巡となっている。これまで回復歩調を続けてきた石油や鋼板類が多少とも天井感を強めるに至っているのは、市況が採算ラインをかなり上回る程度に上昇し、減産態度が次第に緩和されつつあることによるものとみられる。商品市況は、このような生産調整緩和の動きと需要増加のテンポいかに、多少の高下は免れまいが、大勢としては、当面強含みに推

移するものとみられる。

4月の本行卸売物価は、前月比+0.3%と反騰を示したが、これには上、中旬の非鉄(銅)の反発がかなり響いている。なお5月にはいり、上旬は前月比保合いとなったあと、中旬は+0.2%の上昇を示した。

4月の消費者物価(東京)は前月比+3.1%の急騰となった。これには野菜など季節商品の値上がりや年度替わりに伴う授業料、月謝などの上昇が大きく響いているが、家賃・地代なども続騰歩調を示している。5月は、野菜の反落などあって、-0.9%の下落となった。

企業の借入需要はなお落ち着きぎみに推移

4月の銀行券は前年同月をかなり上回る324億円の増発となった。景況の持ち直しを映じ、銀行券の動きはいくぶん強含みに推移していると思われるが、当月の増勢には月末が週末であったことなどの特殊事情もかなり響いている。他方、財政資金は、国債公募代り金の受入れが多額(1,380億円)にのぼったにもかかわらず、公共事業関係費の支払い進捗などを主因に、ほぼ前年同月並みの払超(2,321億円)を示した。このため、本行は、長期債の売戻し(641億円)、短資業者向け政府短期証券の売却(700億円)を行なったが、金融市場は、なお余裕含みに推移し、本行貸出は294億円の減少となった。

4月の全国銀行貸出は、2,078億円の大幅な減少を示した。これは、主として、前月、期末預金との兼合いで著増した貸出の反動減による面が大きい。このように、ここ一両月、貸出は大きな振幅を示しているが、この両月を通計してみると、貸出増加額は前年同期を7%程度下回っている。金融機関の貸出態度は引き続き積極的であるが、企業の借入需要は依然落ち着きぎみに推移している。このため、貸出金利も緩慢ながら、低下傾向を続けている。

なお、長期国債は4月に1,400億円発行され、このうち67億円が証券業者によって一般に売り出

された。

貿易収支の基調は引き続き好調

4月の国際収支(IMF方式)をみると、経常収支は、貿易収支の黒字幅(152百万ドル、季節調整後約170百万ドル)が縮小したことを主因に、55百万ドルの受超(前月90百万ドルの受超)にとどまった。他方、長期資本収支は、本邦資本が輸出延払い信用の供与を中心にかなりの流出を続けたものの、外国資本がインパクト・ローンの受入れ増加などから受超となったため、赤字幅(28百万ドル、前月92百万ドル)が大きく縮まり、この結果、総合収支は若干の黒字(4百万ドル)となった。なお、金融勘定では、外貨準備は11百万ドルの減少となったが、為替銀行の短期資産・負債バランスは、ユーロ・ダラーの流出などから、若干好転した。

4月の輸出は、前年同月比+14%と好調な足取りを続けており、季節調整後の実勢も、一段高の前月とほぼ同水準を示している。通関ベースで商品別の動きをみると、綿織物などは依然不振ながら、テレビ、ラジオ、自動二輪車、化学品、合繊織物などが好調を継続している。先行指標である輸出信用状も、米国向けを中心に漸増傾向を変えていない。

4月の輸入は、前年同月比+12%、季節調整後の実勢でも、前月比+4%とかなり水準を高めた。通関ベースで商品別の動きをみると、原燃料が木材、鉄鉱石、石炭などを中心に引き続き増加した。最近における原燃料輸入のかなり急速な増加は、生産の持ち直しに伴い消費が漸増していること、海員ストライキの関係で、年初大きく落ち込んだ在庫の補充が行なわれていることによる面が大きい。こうした在庫補充の動きは、すでに、ほぼ一巡しつつあるとみられるので、今後輸入の増勢はいくぶん緩慢化するものと思われる。先行指標である輸入信用状などの動きも当月は多少落ち着きぎみとなっている。(昭和41年5月31日)